

報恩講とは

宗祖・親鸞聖人のご命日（十一月二十八日）を機縁にお念仏の教えをいただく同朋がおつとめする法会です。京都の本山（東本願寺）をはじめ、各地域のお寺やそれぞれのご家庭、聞法の仲間等、有縁の集まりで毎年大切に営まれています。ぜひともにお勤めいたしましょう。

名古屋別院（東別院）の報恩講は毎年十二月十三日～十八日にお勤めされます。

き き よ う し き

帰敬式（おかみそり）のご案内

帰敬式とは「仏（仏様）・法（教え・僧）（ともに教えを下さるご仲間）の三宝に帰依（依りどころ）し、浄土真宗の宗祖・親鸞聖人が生きられた本願念仏（南無阿弥陀仏）の教えをいただき、生涯を通じて自分自身を明るかにしようと、「真宗門徒」としての人生を歩み出すことを誓う儀式です。儀式後は仏様への感謝の気持ちを「法名」（釋○○）が授けられます。「釋」の字は、お釈迦様の「釋」であり、私たちに本願念仏の教えを勧めいただいたご恩をお釈迦様のお弟子として歩むことへの感謝の気持ちを表わす。

「法名」はご自身に合った名前をいただくことができますが、本来は生前にいただくものです。仏教は様々な悩みや苦悩を抱えながら生きるしかない私たちの现实生活のただなかに開かれる教えであり、私自身の姿を照らし出す鏡となる教えです。その教えに依りながら我が身の事業を自覚し、教えに生きる人として歩むことへの覚悟が「法名」です。

ぜひ、名古屋別院報恩講（毎年十一月十三日～十八日勤修）の機会に帰敬式を受けたいです。